

すまいるたん



発行元
東京新聞
南千住東口専売所
5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
090-2657-0300

「コッ通りから甲子園出場 伊藤優輔さん」

「都立校として初めてです」

「コッ通り商店街にある朝日堂ベーカリー
の一人息子の伊藤優輔さんは、都立小山
台高校（品川）の2年生です。片道1
時間かけて通学しています。」

小山台高は第86回選抜高校野球大会
（3月21日から12日間、甲子園）に都
立校として初めてとなる21世紀枠で出
場します。

21世紀枠とは各都道府県の秋の大会
で上位の成績を残した学校のうち、困
難な状況を克服したり、ほかの学校の
模範になったりしている学校を対象と
した特別な出場枠です。候補として全
国の9校が選ばれ、更にもう3校
に絞られます。

「進学指導特別推進校」である小山台
高校は文武両道の都立有数の進学校で
す。定時制高校も併設しているため、
練習時間も一時間半と短く、また狭い
グラウンドをほかの部と分け合いなが
ら使用しているため週3日しか練習で
きません。この制約を乗り越え、去年
秋は甲子園出場の経験がある強豪校を

相次いで破り、都大会でベスト8に進み
ました。悪条件の中の努力が認められて
の出場です。

「ほかに行くしかない」

グラウンドがないため、週末は近隣の
高校に日帰りで遠征して練習試合をして
います。他校のグラウンドを使う際には、
感謝の気持ちを持って事前に必ず周囲の
清掃をしています。

「キャプテンでピッチャーです」

優輔さんは、幼い時から野球が大好き
でした。父親の康之さんの仕事が5時に
終わると、夕入まで出掛けて日が暮れる
まで二人でキャッチボールをしています

た。優輔さんは小学3年～青雲クラブ
チームに所属し、スポーツに力を入れて
いる区立尾久八幡中学に在籍中は荒川ウエー
ブに所属、ピッチャーとして東京地区大
会で優勝して全日本大会まで進出しまし
た。

甲子園には球速139～140キロの速球を投
げるピッチャーとして50人近い野球部員
をまとめるキャプテンとして出場致しま
す。

「肩、ひじの故障はしたことありま
せん」

優輔さんは喘息があつたため、水泳を
3～12歳まで続けました。水泳によって

柔らかな筋肉と怪我をしない身体が作ら
れたのではとお父さんはおっしゃってま
す。

「エブリデー・マイ・ラスト（毎日を最
後の日と違って生きる）」

「当たり前前のプレーを当たり前前にこなせ
る選手に」

小山台高の野球部は、²⁰⁰⁶年にシンドラー
社製のエレベーター事故で亡くなった当
時2年生の市川大輔さんが所属していま
した。市川さんが日誌に残したこの言葉
を野球部員は支えにしています。

「借りができました」

子どもは3歳までに一生分の恩返し
（親孝行）をすると言われていますが、
今回の甲子園出場で優輔さんに借りがで
きたとお父さんは笑っておられました。

「出場できるのは先輩や校風、皆さ
んのおかげ」

感謝の気持ちを胸に甲子園の土を踏む
優輔さんは、度胸があつて冷静です。

都立で甲子園1勝はどこも成し遂げて
いません。逆境に乗り越えた強さでぜひ
1勝を。

コッ通りの若きヒー
ローの活躍を応援しま
しょう。

